

岐阜大学講義「景観デザイン」（工学部社会基盤工学科）

最終課題 公開発表会のお知らせ

岐阜駅前問屋町の市街地を題材に、まちの景観デザインを提案する課題の、公開発表会を下記の日程で予定しております。まだまだ技術者としても未熟な学生たちの提案ですが、明日の岐阜を想って一連の演習課題に真剣に取り組んだ学生たちの作品が揃います。

開催日時： 2015年12月17日（木） 10:00～12:00

開催場所： 岐阜シティタワー43 1Fアトリウム

見学参加： 自由（公開講義）

- 受講者は、岐阜大学工学部社会基盤工学科の主として2年生たち。40人程度。
最終課題は、基本的に3人一組のグループ演習として取り組んでいる。
- 担当は、社会基盤工学科の出村嘉史准教授、専門は景域計画、都市形成史。連絡先：demu@gifu-u.ac.jp 058-293-2446
- 講義「景観デザイン」（後期開講科目）で学生たちは、「景観とはなにか」「景観の構造」「人の集まる空間のデザイン」「水と緑のデザイン」「色彩計画」「都市の魅力と問題」などについて学習し、その上で、実際のまちを対象にした演習として、問屋町の再生のためのデザイン提案に取り組んでいる。
- ここでいう「景観」については、写真で撮り得るような表層のことだけではなく、その場における全ての営みが関係する領域の問題だ、と講義している。
- 11月5日（木）より、実質的にこの課題に取り組みはじめており、この日は、全受講者が実際に問屋町の実見調査を行い、実況把握やヒアリング調査を通して、デザインに取りくむ際の視点、課題探しを行った。
- 最終課題は、これからの問屋町をどのようにすべきか、そのために必要な空間デザインのポイントを選定し、ポスター（A1版）と模型表現によって提案する。
- 同講義における演習の対象として、昨年度までは3年連続で柳ヶ瀬を対象としていた。これは、駅前に岐阜大学のサテライトキャンパスができ、ここで講義をするようになったことを契機として、実際のまちで実践的な演習課題をすべきと判断したため。しかし、実際にサテライトキャンパスが立地する問屋町を対象とすることに、町内の好意的な受け入れ態勢が出来たため、今年度から同対象で実施することとした。
- この最終課題の発表をまちに対して公開プレゼンとするのは、学生たちにとっても、ある程度のリアリティと責任を感じつつ提案を構想することができるという教育効果と、それらの提案がまちの方々の発想を刺激する効果が狙い。（写真は昨年の様子）

